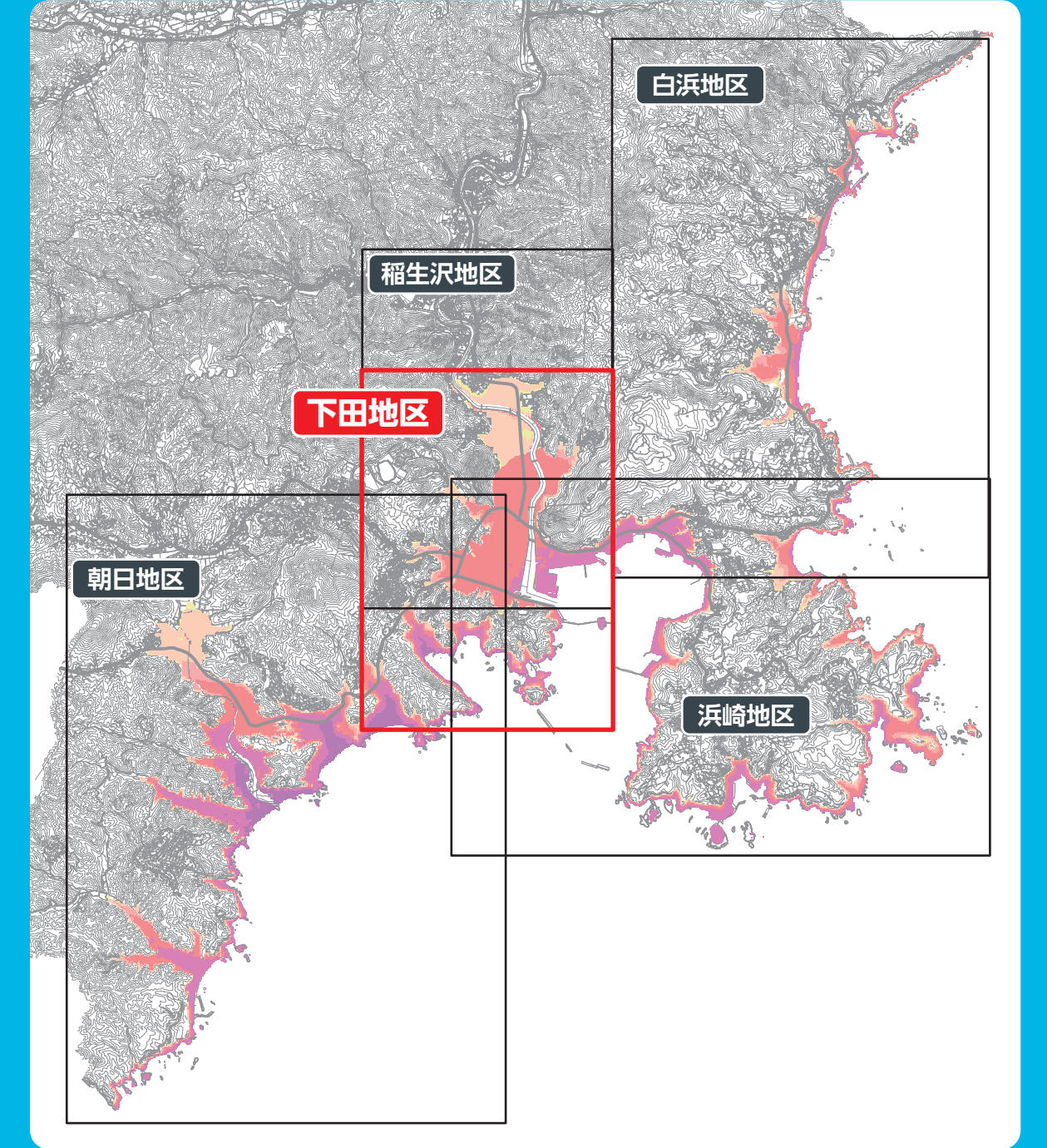


下田市

【下田地区】

津波

ハザードマップ



お問い合わせ 防災安全課 下田市東本郷1-5-18 TEL 0558-36-4145

下田市 令和2年3月

津波警報・注意報の種類

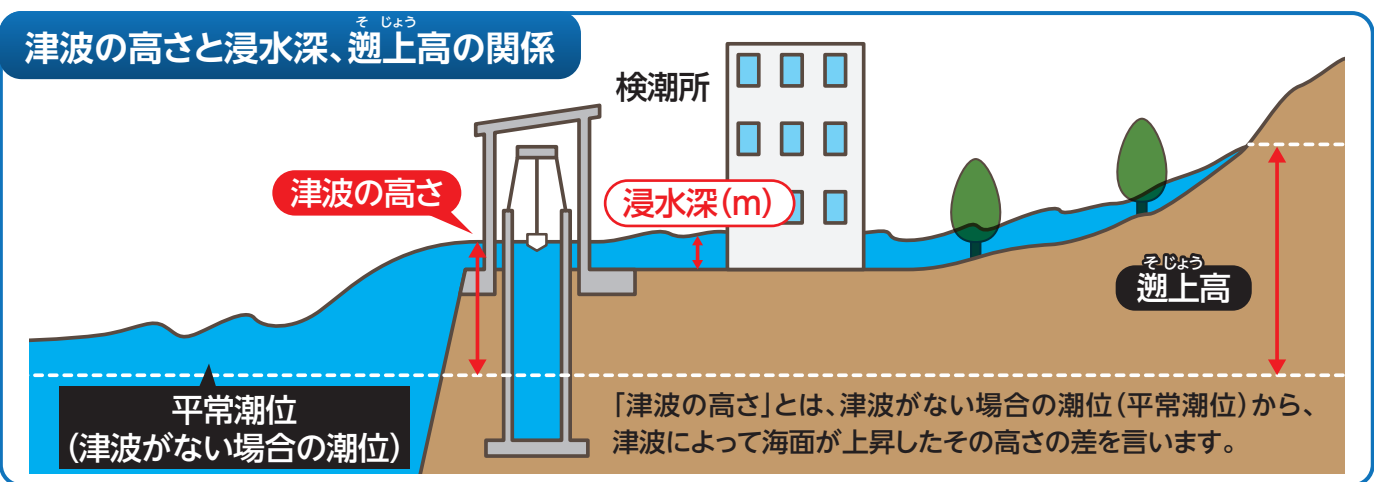
津波による災害の発生が予想される場合には、気象庁が「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」を発表します。

津波警報などの種類	発表される津波の高さ		とるべき行動
	数値での発表	定性的表現での発表	
大津波警報 (特別警報)	10m超	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、直ちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。 警報が解除されるまでは、安全な場所から離れないでください。
	10m		
	5m		
津波警報	3m	高い	
津波注意報	1m	—	海の中にいる人は直ちに海から上がって、海岸から離れてください。 海水浴や磯釣りは危険なので行わないでください。 注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近づいたりしないでください。

マグニチュード8を超える巨大地震の場合、正確な地震の規模をすぐには把握できないため、その海域における最大級の津波を想定して、警報を発表します。
これにより、津波の高さを小さく予想することを防ぎます。この時、最初の津波警報では、「巨大」「高い」という言葉で発表して非常事態であることを伝えます。

また、震源が陸地に近い場合、津波警報が津波の襲来に間に合わないことがあります。

「揺れたら避難」を徹底し、より高く遠くへ避難しましょう。



ハザードマップについて

このハザードマップは、静岡県の実施した「静岡県第4次地震被害想定」における最大クラスの津波（レベル2津波）が発生した場合の浸水想定区域、基準水位、避難場所などの情報を地図面に、津波に関する基本的な知識や避難時の心得などを記事面にまとめたものです。

実際の津波が想定どおりの結果になるとは限りませんが、このマップを利用いただき、いざという時に適切な避難行動をとれるよう、備えましょう。

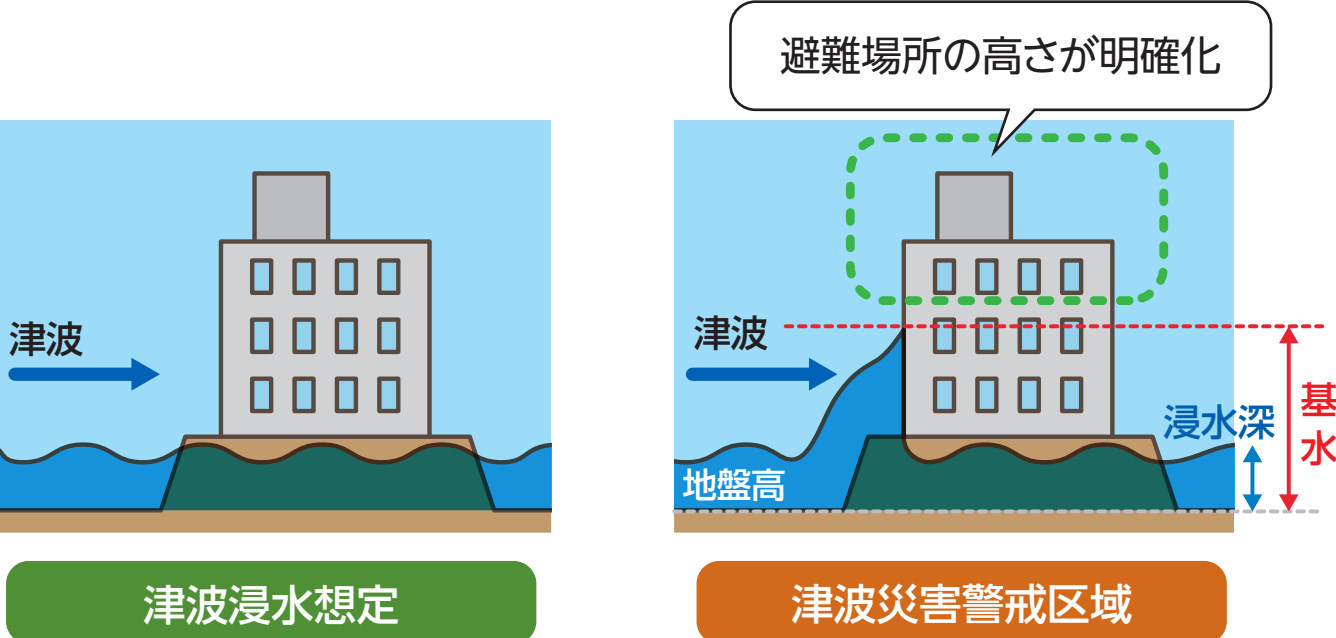
過去の津波災害

下田市における過去の津波災害は、記録が残っている18世紀以降だけでも、1703年元禄関東地震、1707年宝永東海地震、1854年安政東海地震の3度、津波によって下田の街と港に大きな被害を受けています。近年の津波被害の状況は、大きな被害はないものの、100年未満の間に5回の津波被害が発生しています。チリ沖地震のように、南北アメリカ大陸沿岸などの環太平洋地域で発生した地震による遠地津波についても警戒が必要となります。

津波災害警戒区域と基準水位

最大クラスの津波が発生した場合に、住民等に被害が生ずるおそれがあるとされ、警戒避難体制を特に整備すべき区域を「津波災害警戒区域」といって都道府県により指定されます。区域指定の際には、浸水深に津波が建築物等に衝突した時に生じるせり上がり高さを加えた水位である「基準水位」も公表されます。

下田市津波ハザードマップではこの「基準水位」を掲載しています。



津波避難の心得

気づいたらすぐ避難！

このような場合には、すぐに避難を開始しましょう。

- 強い地震（震度4程度以上）を感じたとき
- 長い時間ゆっくりとした揺れを感じたとき
- 津波警報・注意報の発表や避難の呼びかけがあったとき
- 急な引き潮などの海面の異変が起こっているとき

一刻も早く、高く、遠くへ！

津波災害は避難することで命を守る災害です

津波から避難するときは、想定にとらわれず、可能な限りより高く、遠くへ逃げましょう。声を掛け合いながら、率先して避難することが大切です。



避難はなるべく徒歩で

車の避難は、地震による道路の損傷、建物の倒壊などの影響を受けるほか、渋滞により避難が遅れてしまうことがあります。また、他の徒歩避難者の円滑かつ安全な避難の妨げとなります。



海岸や川のそばには近づかない

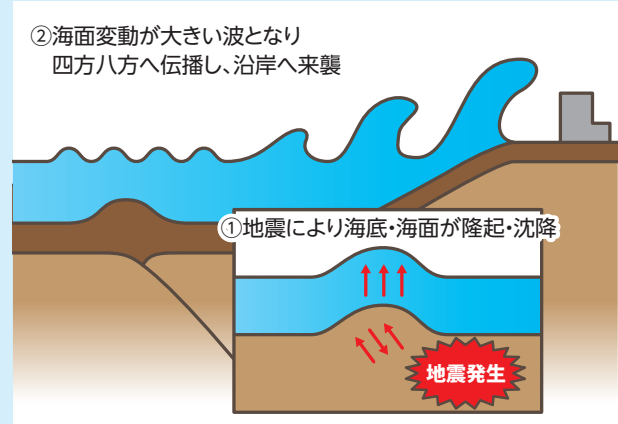
地震の起こり方によっては引き波がなくても津波が到達することがあります。また、津波は川を遡上し上流側にも押し寄せることがあります。海岸や川のそばにいるときは、一刻も早く避難し、警報・注意報が解除されるまで絶対に近づかないようにしましょう。



津波について①

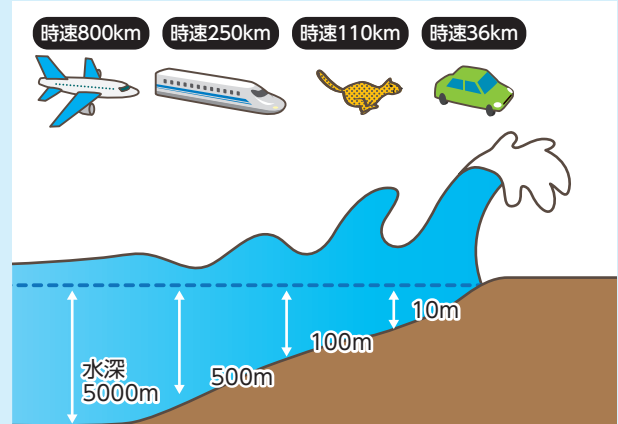
津波が起こるしくみ

海底下で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、大きな波となって伝わるものが津波です。地震が発生させた地下の断層の傾きや方向、さらに津波が発生した場所と海岸との位置関係によっては、潮が引くことなく最初に大きな波が海岸に押し寄せる場合もあります。津波は引き波が始まるとは限らないので注意しましょう。



津波の伝わる速さと高さ

津波は、水深が深いほど速く伝わる性質があります。水深が浅くなるほど速度が遅くなるため、陸地に近づくにつれて後から来る津波が前の津波に追いつき、波高が高くなります。水深が浅いところで遅くなるといっても、人が走って逃げ切れるものではありません。海岸付近で地震の揺れを感じたり、津波警報が発表されたら、実際に津波が見えなくても、速やかに避難しましょう。



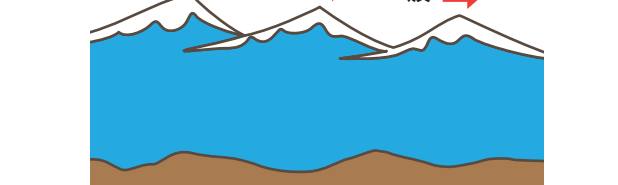
30cmの津波でも危険

津波は、海底から海面までの海水全体が動くエネルギーの大きな波であり、風が吹くことによって海面付近の海水が動く現象である「波浪」と違います。津波が高くなってくると、それにつれて海水全体の動きも大きくなり、高さ0.2～0.3m程度の津波でも人は速い流れに巻き込まれてしまうおそれがあり危険です。0.2m以上の津波が想定される場合は、津波注意報が発表されますので、海から上がって速やかに海岸から離れてください。



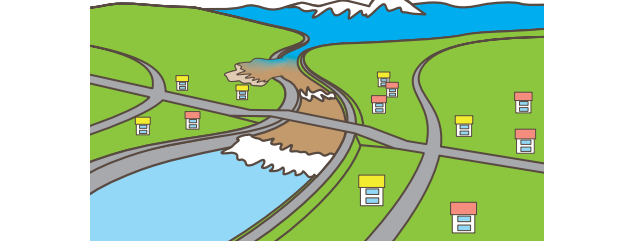
繰り返し襲ってくる

津波は二度、三度繰り返しやってきます。必ずしも第1波が最大とは限りません。津波注意報や津波警報が解除されるまで海に近づいてはいけません。



河上の遡上（逆流）

津波は河口から河川に侵入し、何kmも上流に遡上（逆流）することがあります。遡上した津波が、河川堤防を越えて沿川地域に大きな被害をもたらすことがあります。



日頃からの備え

1

自宅の位置と、自宅付近の避難目標となる高台を確認しましょう。

自宅付近の、浸水の状況を確認しましょう。自宅がある場所は何色に塗られていますか？次に、自宅付近の避難目標となる高台を確認しましょう。家族などと話し合い、互いの避難場所や緊急連絡先も確認しておきましょう。

2

低地や危険箇所を避け、避難経路を設定しましょう。

標高の低い箇所や、危険な箇所を避けて避難経路を設定しましょう。

3

実際に避難経路を歩いてみて、安全を確認しましょう。

避難経路を実際に歩いてみましょう。危険な箇所がある場合には、避難経路を見直しましょう。

非常持ち出し品の準備

懐中電灯、携帯ラジオ、非常食、飲料水などを非常持ち出し袋にまとめ、いつでも持ち出せるようにしておきましょう。

防災訓練

津波などの災害時に、落ち着いて避難行動や応急活動ができるように、日頃から十分な訓練をしておきましょう。地域の防災訓練などには積極的に参加しましょう。

下田市防災ツールの活用

下田市では「下田市津波ハザードマップアプリ」「海拔表示マップ」「わたしの防災カード」など防災活動に役立つツールがあります。これらを活用して、日頃から備えましょう。

●下田市津波ハザードマップアプリ



https://www.city.shimoda.shizuoka.jp/category/010300tiiki_bousai/113093.html

●海拔表示マップ

https://www.city.shimoda.shizuoka.jp/category/010500bousai_tishiki/112225.html

●わたしの防災カード

https://www.city.shimoda.shizuoka.jp/category/010500bousai_tishiki/112681.html

津波について②

近地津波

日本沿岸を震源とする地震等により発生する津波
(例) 太平洋側：平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震、東海地震、東南海・南海地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震など
日本海側：1983年(昭和58年)日本海中部地震、1933年(平成5年)北海道南西沖地震など

遠地津波

遠方を震源とする地震等により発生する津波
(例) 1952年カムチャッカ地震、1960年チリ地震、2010年チリ中部沿岸を震源とする地震など
1952年 カムチャッカ地震 (M8.5 約1,500km)
2010年 チリ中部沿岸を震源とする地震 (M8.8 約16,700km)
1960年 チリ地震 (M9.5 約16,700km)
海外での地震で発生した津波のうち、日本およびその周辺沿岸に影響を与えた主な津波

近地津波と遠地津波の特性

	近地津波	遠地津波
揺れの有無	有	無
到達時間	数分～数十分	数時間～20数時間
避難行動開始までの猶予時間	短	長
防波堤などの防護施設	揺れによる倒壊などにより機能しない場合がある	機能効果を見込める

地震にも注意

震度分布図

静岡県の第4次地震被害想定では、南海トラフ巨大地震が発生した場合、下田市では震度5強から6弱の揺れが想定されています。あくまでも予測値であるため、想定された以上の震度となる場合もあり、十分な注意が必要となります。

